

調査等事項報告 (団体名： 会派 改革クラブ)

視察 (要望) 先	宮城県伊具郡丸森町 大張物産センターなんでもや
視察 (要望) 日時	令和元年6月27日 (木) 14時~15時30分まで
視察 (要望) 項目	「なんでもや」の運営状況について
視察 (要望) 者	結城 正、犬飼 司、菊地貞好
内 容	<p>○説明者：大張物産センターなんでもや 代表 鎌田実氏</p> <p>丸森町は宮城県最南端部の町で、人口14,000人弱、高齢化率40%の町である。大張地区は、町の西部に位置して人口は昭和29年の合併時は約2,600人いたが、現在の人口は800人弱で典型的な中山間地域である。</p> <p>平成の時代を迎え地域内にあった店舗が次々に廃業し、その後農協ストアも閉店となった。危機感を感じた住民と商工会大張支部の会員が地域の店作りに立ちあがった。</p> <p>「なんでもや」は地域の店として、商品の販売とともに心と心の触れ合いや憩いの場を提供している「共同出資、共同店舗」である。基本、自分たちのことは自分たちで行うを原点に店舗づくりも経営も自分たちで行っている。共同出資ということで当時300戸あった各戸より1万円ずつ出資していただければ300万円集まり、閉店した農協ストアを借りて開店できると踏んでいたが、1戸1万円は高いということで1戸2,000円の出資をお願いして、あとは特別寄付を依頼して計240万円を集め、なんとか開店することができた。今年で15周年になる。</p> <p>売上はどんどん伸び、2010年には4,500万円を記録したが、2011年の東日本大震災で東京電力福島第一原発で爆発が起きて、放射能汚染の影響で経営がとん挫した。そして現在開店休業状態になっている。地域の著しい人口減少と買い物弱者の増加による風評被害からいまだ復興できず、休業せざるを得ない状況と言ったほうが正しいのかもしれない。現在は一日も早く再開できるように奮闘中である。</p> <p>また、オーナーの鎌田さんは自らハンドルを握って移動販売車で、一戸一戸巡回して歩いている。オーナーは一週間かけて大張地区の約270戸を全て周っている。この地域の75歳以上は約180人いて、独居世帯は約70戸に及ぶため、高齢者の見守りも兼ねて周っている。移動販売の収支は人件費、燃料費、その他の経費を差し引いても黒字である。</p>

調査等事項報告 (団体名： 会派 改革クラブ)

視察 (要望) 先	福島県福島市 NPO 法人ビーンズふくしま
視察 (要望) 日時	令和元年 6 月 28 日 (金) 14 時～15 時 30 分まで
視察 (要望) 項目	子どもの学習支援事業について
視察 (要望) 者	結城 正、犬飼 司、菊地貞好
内 容	<p>○説明者：NPO 法人ビーンズふくしま 事務局長 中鉢氏 担当 オオノ氏</p> <p>日本では現在、子ども 6 人に 1 人が貧困状態にあるとされている。国は子どもの貧困問題に対して「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備することとともに教育の機会均等を図るため、子どもの貧困対策を総合的にすること」を目的に平成 26 年 1 月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」を施行し、福島県も平成 27 年 3 月子どもの貧困対策に関する計画を策定した。</p> <p>生活困窮者自立支援法に基づき、NPO 法人ビーンズふくしまでは、県北・相双地区の小学 1 年生から高校 3 年生までの子どもを対象として無料で家庭教師型の学習支援を福島県からの事業委託で活動している事業所である。</p> <p>現在のところ登録人数は県北に 15 名、相双に 7 名登録されている。家庭訪問が難しい場合は、近隣の公民館等で実施することもあるようだ。高校生には中退防止に係る支援を、子どもやその保護者に対して奨学金等の就学資金に関する相談支援、情報提供をしている。学習支援スタッフが 1 回 70 分、1～2 週に 1 回程度、月に数回実施されている。</p> <p>学習支援の周知方法は友人の紹介、学校で配られたチラシ、就学援助の手続きの封書に入れてあるチラシなど様々である。</p> <p>○子どものアンケート結果 ・笑うことが増えた ・話すことが楽しく思えるようになった ・一緒に勉強している時が楽しい</p> <p>○保護者のアンケート結果 ・自分自身で教えることができなかつたので大変助かっています ・もっと早くこの支援に出会っていればよかった、全然知らなかつた。 ・最初無料と聞いて何か買わされるのでは、怪しいと思った</p> <p>等々のアンケート結果があるようだ。</p>